

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890700069
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム嶺南
所在地	愛媛県大洲市肱川町山鳥坂241-1
自己評価作成日	平成 27年 7月 8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27年 10月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

肱川の清流、近隣・施設内の桜の木、石楠花の公園、乗馬場等、大変自然環境に恵まれた施設です。
入居者の皆さんは落ち着いた環境の中、毎日楽しく生活を送られています。
各種研修や施設内の勉強会等により職員の介護に対する姿勢、介護技術も徐々に向上してきています。
今後も努力していきたいと思えます。
また、地域密着施設として地域と交流を深めながら良いグループホームを目指していきたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広々とした敷地に建つ洋風の建物で、眼下に鹿野川湖を望み、春には桜、秋にはススキなど、年中爽やかな風に包まれ、四季折々の風情を感じる事ができる開設5年目の事業所である。職員一人ひとりの目標を掲げ、利用者がゆっくりと穏やかに生活できるよう支援をしている。管理者は職員とのコミュニケーションを大切にし、職員もまた管理者の声に耳を傾け何でも相談できる良好な関係が築かれている。地域とのつながりを大切に、地域の方々との交流を深め、利用者一人ひとりの思いを汲み取り、笑顔あふれる暮らしが継続できるような事業所を目指し日々努力している。今後、更なる発展を期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム嶺南

(ユニット名) 南棟

記入者(管理者)
氏名 松田 幸博

評価完了日 平成 27年 7月 8日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) フロアごとに理念を目に付くところに啓示して共有できるよう努めている。定期的に確認を個々で行っている。	
			(外部評価) 法人全体の理念と事業所独自の理念がフロア内の見やすい場所に掲示され、職員間でその理念を共有し、実践できるように意識づけしている。また、職員一人ひとりが、年間目標を立て、目標達成できるように日々、邁進している。年末には振り返りを行い、常にサービスの質の向上に向け取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域住民との交流は少しずつではあるが出来ている。今後も交流の場を積極的に設けていきたい。交流できるよう当施設での催し物の参加も募っていきたい。	
			(外部評価) 地域の敬老会に数名で参加することができた。秋には近くの小学校の運動会、地区の秋祭りなどの見学ができるように計画している。また、納涼祭や避難訓練など事業所のイベントには、近隣住民への案内を行ったが、平日実施と悪天候のため不参加となった。今後も少しでも多くの参加があり、交流が持てるよう取り組む方針である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議で認知症について話し合いを行っているが、地域を対象とした企画等は実現できていない。	

愛媛県 嶺南

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 毎月の行事、入居者の状況、行事予定・研修予定等の報告を行い、構成員の方からご意見を頂いている。地域行事の情報等もお知らせして頂いているがなかなか参加できていない。	
			(外部評価) 運営推進会議は家族、町担当者、民生委員、近隣住民など、幅広い参加者を得て開催されている。会議では事業所の利用状況や活動報告を行い、参加者と意見交換をしている。「事業所の入口が狭いため、緊急車両が出入りにくいのではないか」という意見が参加者から出され、早急に入口の拡張工事を施工するなど、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議には市の担当者の方にも参加していただき意見交換・情報交換を行っている。質問、疑問がある時は連絡し直接助言を頂いている。	
			(外部評価) 市職員は毎回運営推進会議に参加し、事業所の利用状況や取組みについて報告し意見交換している。また、3カ月に1度行われる市連絡会では、福祉課担当者より介護保険の改正や利用料負担割合の説明や様々な情報交換をしている。また、個別相談にも応じてもらえるよう体制作りに努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束について事前にスタッフ間で話し合い必要なときは家族に説明、同意を得てから行っている。また、毎月ケアカンファレンスにて検討を行い1日も早くなくなるよう努めている。	
			(外部評価) 以前、ベッドから転落の危険のある利用者に対し、家族の同意を得て柵を使用していたが、ケアカンファレンスで話し合いを重ね、現在はベッドの使用を中止し、床に畳を敷き布団で就寝となっている。日中は玄関の施錠をしておらず、利用者が自由に出入りできるよう配慮され、見守りケアの徹底をしている。また、日々の業務の中で声かけや言葉遣いにも配慮し、気付いた点は管理者がその都度指導したり、職員間で注意し合っている。	

愛媛県 嶺南

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 施設内勉強会にて重要性を周知徹底し、少しでも変化がある時は必ず報告し要因を検討している。またアザ等があった場合は原因を追究し家族に説明している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 別棟に成年後見制度を利用している入居者がおられるが、スタッフは制度についてまだまだ理解できていない当施設でも勉強会を行う必要がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、家族に対して管理者が書面をもって分かりやすく説明を行い、理解・同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 契約時に苦情相談先の説明を行い玄関先に意見箱を設置して意見しやすい形を取っている。面会時にはその都度意見や要望を聴くようにしている。	
			(外部評価) 毎月、ホーム便り「嶺南」を発行しホームの様子や各人の生活状況を報告している。また、面会時や年1回の家族会は利用者や家族の意見を聞く良い機会となっている。家族から出された「散髪へ連れて行って欲しい」「病院へ連れて行って欲しい」など個々の要望にも、早急に対応するように心がけている。玄関には意見箱を設置し意見を出しやすいように工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見 意見や提案を聞く機会を設け、反映させてい る	(自己評価) 意見交換の場として、業務カンファレンス・ケアカンファ レンスを開催している。月に数回副部長が訪問しスタッフの意 見を聴いている。	
			(外部評価) 管理者は、共に介護に携わっていて職員と話し合う時間や場 面が多く、コミュニケーションが良く取れている。職員は 日々の支援の中で気がついたことや思いを管理者に伝えるこ とができる環境が整っている。月末の業務カンファレンス は、行事の反省と次行事の打ち合わせなど、職員同士での活 発な意見交換のできる有意義な会議となっている。また、資 格取得に向け、努力している職員も多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時 間、やりがいなど、各自が向上心を持って 働けるよう職場環境・条件の整備に努めて いる	(自己評価) 有資格者手当等があり、職員が資格取得に対し向上心が持て るように取り組んでいる。また、時間外も取れるよう配慮し ている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を 受ける機会の確保や、働きながらトレーニ ングしていくことを進めている	(自己評価) 毎月研修の案内を行い、スタッフが積極的に研修に参加して いる。また、報告書を全スタッフが目を通し周知できるよう 働きかけている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流す る機会をつくり、ネットワークづくりや勉 強会、相互訪問等の活動を通じて、サービ スの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡会に加入し、3ヶ月に1回会議を設け意 見交換を行っている。他の運営推進会議に参加し交流を図っ ている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が 困っていること、不安なこと、要望等に耳 を傾けながら、本人の安心を確保するた め関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に事前調査を行い本人・家族より介護に対する希望・ 要望を聴いている。本人が安心して生活できるよう家族と協 力して支援している。	

愛媛県 嶺南

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査・契約時に家族からよく話を聞きケアプランに反映している。異常があった場合は連絡を取り家族の信頼が得られるよう努力している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) まず安全面、環境変化への対応等を考慮したプランを作成、2週間後より本人・家族の希望に沿ったプランを立案し取り組んでいる。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 残存能力を生かせるようなアプローチを行い、調理や清掃等の家事を中心にスタッフが一緒になって行うよう心がけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 毎月新聞を送付、また3か月に1回ケアプランの状況を報告し入居者の状況が分かるよう努力している。時々近況報告を電話にて行ったり、面会時に現状を報告している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族の協力のもと知人の面会の支援を受けたり、家族の支援の下外出を行っている。	
			(外部評価) 家族や近所の方の面会があり、家族と一緒に美容室やお墓参りなど馴染みの場所に出かけたり、近所の方との会話を楽しんでおられる。面会回数の少ない家族には電話連絡するなど、馴染みの関係が途切れないような支援に努めている。また、恒例の秋祭りには獅子舞が事業所前で踊り、毎年たくさんの笑顔が見られている。肱川ふれあい祭りにも来月行く予定である。	

愛媛県 嶺南

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日中フロアで過ごされる入居者が多く、一緒に同じ作業を行ったり関わりあえる場を設けている。スタッフが話の話題を作り楽しく会話ができるよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去時には、情報提供書を作成し継続して介護ができるように配慮している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の希望や意見を聴き、意向に沿った支援をしている。本人の希望が聞けない場合は、家族から聴いたり、生活暦や行動から判断している。	
			(外部評価) 職員は利用者一人ひとりに向き合いながら、日常の表情や態度から気持ちを汲み取り、思いや意向を把握するよう努めている。「家に帰りたい」という思いを聞き、一緒に自宅近くまで帰り気持ちが落ち着いた利用者もいる。また、思いや意向の表出が難しい利用者に対しては、ふとした時に出た言葉やしぐさから利用者の思いを把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人からこれまでの暮らしを聞いたり、家族から今までの暮らし方を聞いている。以前利用していた事業所からも情報を提供して頂いている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日バイタル測定、行動等記録し気付いたことはその都度職員に報告、また申し送りノートにて現状把握に努めている。異常があった場合、主治医・看護師に報告し指示をあおいでいる。	

愛媛県 嶺南

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月ケアカンファレンスを行い基本3ヶ月に一度見直しを行い本人に合った介護計画を立てている。状態に変化があった場合は再アセスメントを行いその都度見直しを行っている。	
			(外部評価) 利用者や家族の思いや意向を反映した介護計画を作成している。利用者毎の担当職員は利用者の生活状況や身体状況を把握し、月に1回モニタリングを行っている。3か月に1回、担当者会議を実施し介護計画の見直しをしている。車いす移動から独歩可能になったケースや、オムツ使用から尿取りパッドのみ使用になったケースもある。また、現在102歳の方の介護計画の目標を「110歳まで生きよう」とし、前向きに取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別に介護記録・経過観察記録・介護業務日誌に毎日の行動を記録し申し送り・ケアカンファレンスにて情報を共有し良いケアが行えているか考察している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人・家族の希望で療養マッサージのサービスを利用を行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 介護相談員の方と連携があり毎月訪問を受けている。入居者の希望・要望を聴いていただき安心して生活できるよう支援していただいている。	

愛媛県 嶺南

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 協力医療機関を主治医としている。眼科等については本人の かかりつけ医を継続して受診している。歯科・精神科等は協 力医の受診をしている。 (外部評価) 利用者や家族の希望で協力医療機関がかかりつけ医となっ ている。月に2回の往診となっているが、事業所には、ほぼ毎 日訪問があるため、連携が密に取れている。また、点滴治療 が毎日必要な利用者には、訪問看護の利用ができるよう支援 している。専門医の受診も職員の同行で安心して継続受診で きるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 週1回医療連携看護師の訪問があり、職員がその都度入居者 の状態を報告している。また、電話連絡にて常時指示が受け られる体制をとっている。治療の必要な入居者は家族の意向 により訪問看護を受けている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入居者が入院された場合、当施設より情報提供書を作成して いる。入院期間は状況を確認早期に退院できるよう努めてい る。退院時は医療情報提供書を頂き当施設で安心して生活で きるよう努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) グループホームにおいて看取りまで出来ることを説明し、重 度化・終末期の説明も行っている。状態が変化した場合、緊 急時対応希望書を取り直し対応している。 (外部評価) 「重度化及び看取りに関する指針」を作成し、入居時に利用 者や家族に説明している。今年に入り看取り支援を行った が、職員は協力医や看護師との連携を強化し、利用者や家族 の思いを受け止めながら穏やかな最期を迎えられるよう取り 組んでいる。また、看取り後の遺族に対してのきめ細やかな 配慮もされている。	

愛媛県 嶺南

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時のマニュアルはあるが応急手当・初期対応の訓練は行えていなかったが、会社全体で普通救命講習を実施した。また、随時各棟のケアカンファレンスで周知徹底している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練は年2回行っている。今年度は9月・3月に実施予定である。9月については耐震車を依頼し地震体験を予定し地震についても対応策を考慮していきたい。 (外部評価) 9月の避難訓練は消防署立会いのもと、夜間帯で出火元が不明な状態を想定して実施した。同時に起震車体験も行った。事前に近隣住民へ参加の案内を行ったが、都合がつかず不参加となったが、継続的に案内をしていく予定である。また、起震車は全職員が体験でき、利用者には見学してもらうことができた。消防署からの指導もあり、職員の防災意識はより高くなっている。備蓄品は水、ガスコンロ、ラジオや懐中電灯の準備をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 相手の気持ちを考え言葉がけに気をつけているが、信頼関係が出来ているため少し言葉がきつくなる事がある。今後、尊重した言葉掛けが出来よう努めていきたい。 (外部評価) 職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、目線を合わせた対応を心がけている。利用者の名前の呼び方にも配慮している。日常生活の中で、利用者への対応方法で気付いたことは、その都度注意し合っている。また、2カ月に1度の内部研修では、2ユニット間で困難事例を交換し各ユニットにて検討し意見交換をしている。出された意見を共有しながら利用者の気持ちを大切にケアを実践できるように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常の中で本人の思いや希望に耳を傾け、また選択肢がある場合でも尊重できるよう努めている。	

愛媛県 嶺南

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 人員不足のため日課が職員のペースで進まれていたが、現在は職員が充実してきたので今後は一人ひとりのペースで生活を送れるよう努めていきたい。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自分で出来る方はしっかりされるが、出来ない方は職員が行う、単調な服装になっている。家族の協力をあおぎ季節に合った身だしなみが出来るよう努力したい。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人ひとりの好き嫌いを把握したり、食事形態の工夫・食事方法を考えしっかり食事が出来るよう支援している。その後の食器拭きお盆拭き台拭き等のお手伝いもして頂いている。 (外部評価) 献立は系列のグループホームが2カ月交替で作成している。職員と利用者が一緒にテーブルを囲み、穏やかな雰囲気の中で食事をしている。支援の必要な利用者には、職員が横に座り利用者のペースに合わせて援助がなされている。また、嚥下困難な利用者には、トロミ、ミキサー食にする等状態に合わせて工夫している。また、誕生会には手作りケーキ、七夕や節分にはお寿司など、季節感を楽しめるような支援ができている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量や水分量をチェックし記録を残している。季節に応じて水分量を調節している。咀嚼・嚥下状態に応じて食事形態の工夫を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアを行っていただき、介助が必要な入居者は職員が行う。義歯の入居者は就寝後、洗浄剤を使用する。	

愛媛県 嶺南

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を使用し一人ひとりの排泄パターン、行動を知り定期的に声掛け誘導を行い、それぞれの入居者に合った排泄支援を行っている。排泄は自立されているが歩行状態が悪い方についてはP-トイレを使用している。	
			(外部評価) 排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、羞恥心の配慮をしながら支援を行っている。ユニット内には4か所のトイレがあり、車いすでもゆとりのある広さ、立ち上がりバーの設置など自立度に応じてトイレを選び使用している。また、排便困難な利用者は緩下剤の服用をしている。身体状況に合わせてオムツ、パット、ポータブルトイレ等を使用するなど、利用者の状態に合わせた排泄支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便状況を記録し、排便が見られない場合は医療連携看護師に連絡し内服薬等の指示を受けている。また、水分を多く摂取したり運動の声掛けを行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入居者の身体状態もあり一般浴が困難な入居者が多くなってきた。シャワー浴での対応をしている。基本週2回の入浴に努めている。	
			(外部評価) 入浴は週2回を基本としているが、利用者の希望に沿って、毎日いつでも入浴ができるように準備されている。利用者の身体状況に応じて滑り止めマットやシャワーチェアの使用、体調不良時には清拭を行うなど、気持ちよく安全に入浴ができるよう支援されている。現在、入浴の苦手な利用者があり、家族の協力のもと、声かけやタイミングを工夫するなどの支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中でも自室で休んでいただいたり、畳でも休めるよう押入れに常時布団を一組用意している。自室の温度・湿度・照明にも配慮している。	

愛媛県 嶺南

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬している薬が度々変更するので、職員は把握できていない。ケアカンファレンスで周知徹底していきたい。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々の出来ることを伸ばし食器拭き・掃除等の役割がある生活を支援している。また、毎月行事・買い物を実施し気分転換を行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 全員での参加は困難であるが、職員が充実してきたので外気浴も少しずつ行えている。家族の協力にて散髪等で美容院に外出される入居者はおられる。	
			(外部評価) 日常的に事業所周辺を散歩したり、玄関先で外気浴したりして気分転換できるよう努めている。朝のゴミ出しも利用者と職員が一緒に行くなど日課の一つとなっている。年間行事としてオズメッセや道の駅等へ買物、富士山公園やフラワーパーク等へ季節毎の花を見に行くなどの計画を立て実践している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理が出来ない入居者が多いため当施設で管理している。買い物等の支払いは職員が行っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話を希望される入居者にはスタッフが取り次ぎ電話をかけられている。電話がかかってきた場合、可能な入居者は電話口に来ていただき電話される。	

愛媛県 嶺南

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 廊下の壁には入居者が塗った塗り絵等を掲示している。冷暖房も必要に応じ調節している。食事時・自由時間ではテレビの向きを変える等の工夫もしている。</p> <p>(外部評価) 大きい窓から暖かい光が差し込むリビングは、明るく落ち着いた雰囲気空間となっている。対面キッチンから全体を見渡すことができ、利用者は自由に行き来している。壁には行事の写真を展示したり、利用者と一緒に作ったハローウィンの飾り付けを飾る等季節を感じることができる。利用者は畳コーナーやソファでくつろいだり、テレビを見たり、おしゃべりを楽しんだり、思い思いの場所で穏やかな時間を過ごされている。また、電気配線の環境が整っており、在宅用酸素吸入器が使用しやすいようになっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 車椅子の入居者が多く畳で過ごされる入居者はおられないが共用空間にいながらも適度な距離を保ち一人でゆっくりと過ごせるだけの広さがある。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 家族に馴染みの物を依頼するがなかなかなく。当施設で作成した作品しかない入居者が多い。今後も家族に呼びかけ心地よく生活が出来るよう努力していきたい。</p> <p>(外部評価) 居室には、ベッド、耐震棒付きのタンス、洗面台、エアコン、換気扇が備え付けとなっている。枕元にご主人の写真を置いたり、壁に家族の写真や誕生会で貰った色紙などを飾ったり、昔から聞いているラジオを持ち込んだりと、利用者が居心地よく過ごせるような部屋づくりがされている。また、入口には災害時に備え「避難済み」の札があり、安全面での配慮もしている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) フロア内はバリアフリーになっており一人でも移動行動が出来るようになっている。車椅子・歩行器を使用する入居者が多くフロアでの安全確保が困難になっている。今後検討していきたい。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890700069
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム嶺南
所在地	大洲市肱川町山鳥坂241番地1
自己評価作成日	平成 27年 7月 14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27年 10月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設には桜の木々があり、毎年お花見を実施しております。周囲には木々に囲まれており自然と身近に触れ合い日常を送られています。施設内での定期的な勉強会や研修への参加を行っており技術知識のスキルアップを図られています。恒例行事として夏祭りを催し近隣住民、家族様と多くの参加が集え親睦が深められた。少しづつではあるが畑での野菜の収穫が行えた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広々とした敷地に建つ洋風の建物で、眼下に鹿野川湖を望み、春には桜、秋にはススキなど、年中爽やかな風に包まれ、四季折々の風情を感じる事ができる開設5年目の事業所である。職員一人ひとりの目標を掲げ、利用者がゆっくりと穏やかに生活できるよう支援をしている。管理者は職員とのコミュニケーションを大切に、職員もまた管理者の声に耳を傾け何でも相談できる良好な関係が築かれている。地域とのつながりを大切に、地域の方々との交流を深め、利用者一人ひとりの思いを汲み取り、笑顔あふれる暮らしが継続できるような事業所を目指し日々努力している。今後、更なる発展を期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム嶺南

(ユニット名) 北棟

記入者(管理者)
氏名 一宮 祐樹

評価完了日 27年 7月 14日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 各フロアごとに理念を掲げ目標を見やすい位置に掲示し、出勤時に把握した上で勤務に当たり入居者の訴え傾聴に少しゆとりができる場面が増えている。	
			(外部評価) 法人全体の理念と事業所独自の理念がフロア内の見やすい場所に掲示され、職員間でその理念を共有し、実践できるように意識づけしている。また、職員一人ひとりが、年間目標を立て、目標達成できるように日々、邁進している。年末には振り返りを行い、常にサービスの質の向上に向け取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 近隣の方との出会い、挨拶への機会も増えたが地域との繋がりは不十分である。恒例行事、催し物を多く増やし交流の機会への考案、検討している。	
			(外部評価) 地域の敬老会に数名で参加することができた。秋には近くの小学校の運動会、地区の秋祭りなどの見学ができるように計画している。また、納涼祭や避難訓練など事業所のイベントには、近隣住民への案内を行ったが、平日実施と悪天候のため不参加となった。今後も少しでも多くの参加があり、交流が持てるよう取り組む方針である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議等にて近隣、家族の参加の集いが徐々に増えて来ており施設で夏まつりを催し多くの近隣住民、家族様の参加が集えた。	

愛媛県 嶺南

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 毎月の行事・入居者の状況報告、各研修や勉強会を行い構成委員の方から意見を頂いている。地域からの目と耳味となっておりこれに伴い改善ができています。	
			(外部評価) 運営推進会議は家族、町担当者、民生委員、近隣住民など、幅広い参加者を得て開催されている。会議では事業所の利用状況や活動報告を行い、参加者と意見交換をしている。「事業所の入口が狭いため、緊急車両が出入りにくいのではないか」という意見が参加者から出され、早急に入口の拡張工事を施工するなど、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議には、市の担当者の方も参加していただき、意見交換・情報交換を行っている。難題がある時は連絡し助言を頂いている。	
			(外部評価) 市職員は毎回運営推進会議に参加し、事業所の利用状況や取組みについて報告し意見交換している。また、3カ月に1度行われる市連絡会では、福祉課担当者より介護保険の改正や利用料負担割合の説明や様々な情報交換をしている。また、個別相談にも応じてもらえるよう体制作りに努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 危険行為の為、一時的に身体拘束を家族様と相談した上、限定的に施行している。カンファレンスごとに改善策を検討している。	
			(外部評価) 以前、ベッドから転落の危険のある利用者に対し、家族の同意を得て柵を使用していたが、ケアカンファレンスで話し合いを重ね、現在はベッドの使用を中止し、床に畳を敷き布団で就寝となっている。日中は玄関の施錠をしておらず、利用者が自由に出入りできるよう配慮され、見守りケアの徹底をしている。また、日々の業務の中で声かけや言葉遣いにも配慮し、気付いた点は管理者がその都度指導したり、職員間で注意し合っている。	

愛媛県 嶺南

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 施設での勉強会を催し身体拘束と併せて重要性を周知徹底している。少しでも変化がある時は必ず報告し要因を検討している。また、言葉掛に注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在、成年後見制度を利用されている入居者もおられ学ぶ機会が得られるが大まかな事で勉強会などの実施が必要。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、本人・家族に対して管理者が書面をもって丁寧に分かりやすく説明を行い、理解・同意を得ている。必要な行為には改めて確認を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 契約時には、苦情連絡先の説明を行い、また意見箱を玄関に設置して家族が意見しやすい形をとっている。面会時にはその都度意見を聞くようにし改善に努められるよう全員の周知を図るため送りノートを徹底している。	
			(外部評価) 毎月、ホーム便り「嶺南」を発行しホームの様子や各人の生活状況を報告している。また、面会時や年1回の家族会は利用者や家族の意見を聞く良い機会となっている。家族から出された「散髪へ連れて行って欲しい」「病院へ連れて行って欲しい」など個々の要望にも、早急に対応するように心がけている。玄関には意見箱を設置し意見を出しやすいように工夫をしている。	

愛媛県 嶺南

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者・ホーム長・副ホーム長は普段からスタッフより意見を聞けるよう働きかけている。業務カンファレンス・ケアカンファレンスを開催し勉強会の場でも意見交換を行っている。	
			(外部評価) 管理者は、共に介護に携わっていて職員と話し合う時間や場面が多く、コミュニケーションが良く取れている。職員は日々の支援の中で気がついたことや思いを管理者に伝えることができる環境が整っている。月末の業務カンファレンスは、行事の反省と次行事の打ち合わせなど、職員同士での活発な意見交換のできる有意義な会議となっている。また、資格取得に向け、努力している職員も多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 有資格者手当があり、職員が資格取得に対し向上心が持てるよう取り組んでいる。また、時間外も取れるよう配慮している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 2ヶ月に一度施設での勉強会を催し定期的な研修にも各自参加が行えている。報告書にて研修結果を全員が把握できるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修会などに参加し他事業所との意見交換が行なえ介護のレベルアップに取り組んでいる。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に事前に調査を行い本人・家族より介護に対する希望・要望を聞いている。アセスメントを周知し他の入居者の架け橋となるよう支援している。	

愛媛県 嶺南

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査や契約時に家族からもよく話を聞き、ケアプランに反映できるように取り組んでいる。入居後は連絡を密に取り家族の信頼が得られるように取り組んでいる。面会時に近況報告を行い意見を頂いている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 初期の段階ではまず施設に慣れて安心して生活できるよう、安全面を考慮したプランを立てている。2週間を目安に見極めを行い、本人・家族の希望に沿ったプランを立案できるように取り組んでいる。又、生活に慣れて頂く為に他の入居者との交流づくりに努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人の生活歴を参考にし、また残存能力を活かせるようなアプローチを行い、調理や清掃等の家事を中心にスタッフが一緒になって行うよう心掛けている。常日頃より要望、意見を傾聴できるよう体制に努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族には、毎月新聞を送付、3か月に1回ケアプランの状況を書面にて送付している。面会時などに本人との会話中把握できなかった事に対する意見を伺い情報を共有している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族の協力のもと知人の面会の支援を受けている。また家族支援にて外出も行っている。隣棟に知人がおられ時々ではあるが交流が行えている。 (外部評価) 家族や近所の方の面会があり、家族と一緒に美容室やお墓参りなど馴染みの場所に出かけたり、近所の方との会話を楽しんでおられる。面会回数の少ない家族には電話連絡するなど、馴染みの関係が途切れないような支援に努めている。また、恒例の秋祭りには獅子舞が事業所前で踊り、毎年たくさんの笑顔が見られている。肱川ふれあい祭りにも来月行く予定である。	

愛媛県 嶺南

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 合同行事の催しを多く開催し交流の機会が増えている。普段からも会話をされに両棟の入居者の関わりも深まっている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去時には、情報提供書を作成し継続して介護が出来るように配慮している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の会話の傾聴から希望、要望の把握に努めケアプランに盛り込み活用している。 (外部評価) 職員は利用者一人ひとりに向き合いながら、日常の表情や態度から気持ちを汲み取り、思いや意向を把握するよう努めている。「家に帰りたい」という思いを聞き、一緒に自宅近くまで帰り気持ちが落ち着いた利用者もいる。また、思いや意向の表出が難しい利用者に対しては、ふとした時に出た言葉やしぐさから利用者の思いを把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居者がどのような生活を送られてきたのか、好きなものや、嫌いなものなどを把握し、家庭に近い生活が送れるよう支援している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) その日の体調異常や表情の変化などを申し送りにて情報を共有している。わからない事があれば本人へのアプローチや家族様に伺っている。	

愛媛県 嶺南

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月上旬にケアカンファレンスを開き3ヶ月に1度の見直しを行い数名の入居者を対象に話し合っている。両棟での問題点を事例形式で取り上げ解決策を話し合える勉強会を開催できた。	
			(外部評価) 利用者や家族の思いや意向を反映した介護計画を作成している。利用者毎の担当職員は利用者の生活状況や身体状況を把握し、月に1回モニタリングを行っている。3か月に1回、担当者会議を実施し介護計画の見直しをしている。車いす移動から独歩可能になったケースや、オムツ使用から尿取りパッドのみ使用になったケースもある。また、現在102歳の方の介護計画の目標を「110歳まで生きよう」とし、前向きに取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 居宅介護サービス計画書に沿った記録を残しケアプランの評価に活かせる記録を残している。夜間帯は時系列を採用しているがサービス計画書のプランに沿った内容が書かれていることが分かりやすくする為番号を振り分け記録している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人、ご家族からの要望や希望を柔軟に対応できるように行っている。また、要望をケアプランに活かし希望の時間に入浴、食事を実施した。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 新聞やテレビの鑑賞を定期的に促している。また、地域の催しに参加や、ヘアサロンを各入居者に有無を訪ね利用している。	

愛媛県 嶺南

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 日頃の体調異常を協力医療機関の医師、看護師へ都度報告を 行い職員同行のもと受診している。その他の眼科、歯科への 受診もおこなっている。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望で協力医療機関がかかりつけ医となっ ている。月に2回の往診となっているが、事業所には、ほぼ毎 日訪問があるため、連携が密に取れている。また、点滴治療 が毎日必要な利用者には、訪問看護の利用ができるよう支援 している。専門医の受診も職員の同行で安心して継続受診で きるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 週1回の医療連携の看護師が訪問されバイタル測定、異常時 には連絡が取り合える看護師へ報告、相談、指示を受けてい る。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者が入院された場合、当施設より情報提供書を作成して いる。入院期間は状況を確認、早期に退院できるよう努めて いる。退院時は医療情報提供書を頂き当施設で安心して生活 できるよう努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時と状態の変化の都度緊急対応希望書を取り家族の意向 を確認している。入居後も都度希望を再確認している。看取 りの方針については入居時に書面とともに説明をしている。	
			(外部評価) 「重度化及び看取りに関する指針」を作成し、入居時に利用 者や家族に説明している。今年に入り看取り支援を行った が、職員は協力医や看護師との連携を強化し、利用者や家族 の思いを受け止めながら穏やかな最期を迎えられるよう取り 組んでいる。また、看取り後の遺族に対してのきめ細やかな 配慮もされている。	

愛媛県 嶺南

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 年2回以上の避難訓練を実施、災害時に備え施設での備蓄品について話し合い少しづつ増やせている。また、見やすい位置に緊急用の職員の連絡網を掲示している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力を得て年2回以上の避難訓練を実施や夜間、昼夜時のマニュアルを掲示している。又、近隣住民との密接な対策はとれておらず課題としている。台所がIHであり災害時を想定してカセットコンロや懐中電灯の備えをしている。 (外部評価) 9月の避難訓練は消防署立会いのもと、夜間帯で出火元が不明な状態を想定して実施した。同時に起震車体験も行った。事前に近隣住民へ参加の案内を行ったが、都合がつかず不参加となったが、継続的に案内をしていく予定である。また、起震車は全職員が体験でき、利用者には見学してもらうことができた。消防署からの指導もあり、職員の防災意識はより高くなっている。備蓄品は水、ガスコンロ、ラジオや懐中電灯の準備をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 相手の立場に立つことを第一に考えて行動しているがまだ不十分な点から改善に至っていないこともある。 (外部評価) 職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、目線を合わせた対応を心がけている。利用者の名前の呼び方にも配慮している。日常生活の中で、利用者への対応方法で気付いたことは、その都度注意し合っている。また、2カ月に1度の内部研修では、2ユニット間で困難事例を交換し各ユニットにて検討し意見交換をしている。出された意見を共有しながら利用者の気持ちを大切にケアを実践できるように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 意思疎通が困難な方は家族様とも相談している。些細なことからでも本人への選択肢を尊重できるよう心掛け行動しているが職員のペースとなっていることもあるので改善へ務めている。	

愛媛県 嶺南

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員の確保に伴い介護にもゆとりが取れ一人一人の要望に応えられる時間が増えた。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自尊心を傷つけないよう心掛けている。時期や季節にあった服装を促すこともあるが自己決定を優先している。定期的なヘアサロンの利用や入浴時の髭剃り化粧水の使用など行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 基本はフロアにて職員を交えての食事を行っている。一人一人の咀嚼、嚥下機能を把握し食事形状、適切な量を提供している。職員と準備、片付けを手伝って頂いている入居者もおられる。	
			(外部評価) 献立は系列のグループホームが2カ月交替で作成している。職員と利用者が一緒にテーブルを囲み、穏やかな雰囲気の中で食事をしている。支援の必要な利用者には、職員が横に座り利用者のペースに合わせて援助がなされている。また、嚥下困難な利用者には、トロミ、ミキサー食にする等状態に合わせて工夫している。また、誕生会には手作りケーキ、七夕や節分にはお寿司など、季節感を楽しめるような支援ができている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 経過観察記録へ水分、食事量を記録として残し少ない方などには形態を工夫し十分な量が補えるよう行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、個々の状態に合わせて口腔ケアへの声かけ、誘導を行っている。義歯を使用されている方には就寝前に洗浄剤を使用、週一回各入居者の歯ブラシ、コップの洗浄も行っている。口腔内への異常がある方には歯科受信を行っている。	

愛媛県 嶺南

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 棟ごとに4か所トイレが設けられており各入居者の身体機能、残存能力に応じ排泄場所へ誘導、介助している。また、間隔表にて定期的な回数も把握し便秘予防に努めている。</p> <p>(外部評価) 排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、羞恥心の配慮をしながら支援を行っている。ユニット内には4か所のトイレがあり、車いすでもゆとりのある広さ、立ち上がりバーの設置など自立度に応じてトイレを選び使用している。また、排便困難な利用者は緩下剤の服用をしている。身体状況に合わせてオムツ、パット、ポータブルトイレ等を使用するなど、利用者の状態に合わせた排泄支援をしている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 十分な水分量、食物、運動にて予防に努めており慢性気味の方については主治医の指示のもと内服薬でのコントロールをしている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 体調不良の方には部分浴、清拭などを行っていただき拒否が長期的に続く方には家族様と協力を得入浴が行えた。</p> <p>(外部評価) 入浴は週2回を基本としているが、利用者の希望に沿って、毎日いつでも入浴ができるように準備されている。利用者の身体状況に応じて滑り止めマットやシャワーチェアの使用、体調不良時には清拭を行うなど、気持ちよく安全に入浴ができるよう支援されている。現在、入浴の苦手な利用者があり、家族の協力のもと、声かけやタイミングを工夫するなどの支援に努めている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 日中、適度な活動を促し就寝前に入浴の実施や夜間3時間毎の巡視を行い不眠な方には暖かい飲み物の提供、安楽な体位を施行している。長期不眠が続く場合主治医と相談している。</p>	

愛媛県 嶺南

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 基本手渡しにて飲用までを確認している。服薬拒否がある方は形状を変え飲用している。誤薬の防止として本人、日時を明記、服薬数、種類の表も表記し確認してからの服薬を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 意思決定を尊重し本人の好きなこと、やりたいことへの参加を促しており日課を楽しまれている方もおられる。楽しみが限定されている方へは職員同士で模索し実践している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 体調や天気に合わせて中庭などの散歩を行っている。定期的な外出も季節感を感じて頂ける場所や施設を計画しておりどの入居者にも外出を楽しんで頂けるよう支援している。	
			(外部評価) 日常的に事業所周辺を散歩したり、玄関先で外気浴したりして気分転換できるよう努めている。朝のゴミ出しも利用者と職員が一緒に行くなど日課の一つとなっている。年間行事としてオズメッセや道の駅等へ買物、富士山公園やフラワーパーク等へ季節毎の花を見に行くなどの計画を立て実践している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理が出来ない方には施設での金庫で管理をしている。買い物などでの支払いも基本間違いがないよう職員が行っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 要望の限り電話連絡が可能な方には支援している。手紙を利用されている入居者は現在いない。	

愛媛県 嶺南

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) レクリエーション係が中心となり季節感を演出した壁紙の作成を行っている。フロアの広い場所では障害となるものを極力除き快適に過ごされるよう支援している。</p> <p>(外部評価) 大きい窓から暖かい光が差し込むリビングは、明るく落ち着いた雰囲気の空間となっている。対面キッチンから全体を見渡すことができ、利用者は自由に行き来している。壁には行事の写真を展示したり、利用者と一緒に作ったハローウィンの飾り付けを飾る等季節を感じるができる。利用者は畳コーナーやソファでくつろいだり、テレビを見たり、おしゃべりを楽しんだり、思い思いの場所で穏やかな時間を過ごされている。また、電気配線の環境が整っており、在宅用酸素吸入器が使用しやすいようになっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 隣棟の入居者との交流も増え普段からもフロアでの会話も増えている。また、畑の制作を行いここでも交流の機会が持たれるようになった。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) ベッドから畳での布団を希望されたり絨毯の使用にて以前の暮らしに近い生活を送られている方もおられる。</p> <p>(外部評価) 居室には、ベッド、耐震棒付きのタンス、洗面台、エアコン、換気扇が備え付けとなっている。枕元にご主人の写真を置いたり、壁に家族の写真や誕生会で貰った色紙などを飾ったり、昔から聞いているラジオを持ち込んだりと、利用者が居心地よく過ごせるような部屋づくりがされている。また、入口には災害時に備え「避難済み」の札があり、安全面での配慮もしている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 視力の不自由な方には行動範囲を把握し障害となる物への排除、または事例を元に検討し改善へ務めている。</p>	